

(報 告) 令和2年度事業報告について

令和2年度事業報告

自：令和2年4月 1日

至：令和3年3月31日

令和2年度は「新型コロナウイルス」感染拡大の影響を受け、期首には大幅に受診者数が減少いたしました。令和2年3月に定期健診の実施時期を猶予する旨の通達が発出されたことに加え、期首早々の「第1回緊急事態宣言」の期間中は、県を跨ぐ移動の抑制、テレワーク・リモート授業の推進等により、大多数の企業と学校健診のすべてが健診時期を延期する結果となりました。

「第1回緊急事態宣言」が解除となった5月下旬以降、健診需要が徐々に回復し、8月～12月は当初計画通りの健診と一旦延期された健診とが重なったことにより、業務が集中いたしました。限られた検診車と運営スタッフのスケジュールを大幅に見直すとともに、会員・顧客の皆様との日程調整を繰り返し、全力を挙げて巡回健診の要請にお応えいたしました。

未だかつて経験のない社会情勢となりましたが、会員・顧客の健診ご担当者の方々の協力のもと、疾病の予防・早期発見に資することを目的とする当協会の社会的責務を果たすことができました。

年明けから年度末にかけては、例年通り業務スケジュールに比較的余裕のある時期となりました。適切な時期に受診機会を提供いたすべく、運営体制を整えましたが、1月7日の第2回目となる「緊急事態宣言」の発出と2月の期間延長は、遺憾ながら年度内に受診すべき方の受診機会を先送りする結果となりました。令和3年4月には、第3回目となる「緊急事態宣言」の発出と期間延長・対象地域の追加・「まん延防止等対象地域」の設定等、依然として厳しい情勢ではありますが、先送りとなった受診者の皆様にはいち早く受診機会を提供いたすべく、取り組むことといたします。

当期は「新型コロナウイルス」の感染拡大の影響により、上期の事業収入が当初予算比71%と大幅に落ち込んだものの、下期に123%と持ち直し、年間では97%まで回復することができました。全くの不測の事態ではありましたが、会員・顧客の皆様のご理解の賜により当年度の危機を脱することができました。

当協会といたしても皆様からの信頼に応えるべく、三密の回避を目的とする健診日程の拡大や運営時間帯の延長要請、消毒専任スタッフの増強等に全社を挙げて向き合うとともに、安全・衛生に万全を期して、健診運営に努めました。

「コロナ禍」の収束は、未だに先行きが不透明な状況であります。当協会は皆様との協議・打合わせを、より一層緊密にしこの難局をともに乗り越えるべく邁進いたします。

I. 事業内容

【健康診断事業】

(1) 健康診断の実績

令和2年度の健康診断受診者総数は227,883人となり、前年度の受診者総数を64,069人下回りました。

下表に示すとおり職域関係では39千人の減少、地域住民関係は適正価額で応札したものの競争入札の結果、継続受託ができませんでした。

職域関係で△39千人となったのは顧客変動による減少であります。「コロナ禍」の影響により実施時期のズレはあったものの、年度内に大多数の企業に健診サービスを提供することができました。

学童・生徒・学生では、10千人程下回りました。約7千人の学生の方々の健診実施が期を跨いで見送られたことに加え、リモート授業推進の影響により約3千人の学生の皆様に健診サービスが提供できなかったことが、その原因であります。

<受診者区分別前年度対比表>

(単位：人)

受診者数 受診者区分	受診者数		差異
	令和元年度	令和2年度	R2年度-R元年度
1) 職域関係	238,525	199,595	△38,930
2) 地域住民関係	14,780	0	△14,780
3) 学童・生徒・学生	38,647	28,288	△10,359
1)～3) 総合計	291,952	227,883	△64,069

健診区分別実績の詳細は別表(9ページ)のとおりでありました。

(2) 「ストレスチェック」

制度が本格化して5年を経過した「ストレスチェック」の実績は、以下のとおりでありました。当協会は全衛連が推奨する定期健康診断と同時に効率的に受検することを提案いたしました。ストレスチェックについては企業の専属産業医と産業保健スタッフが独自に取り組まれる事例が多数を占め、年々その傾向は強くなっております。

需要は徐々に縮小しておりますものの、当協会は引き続き全衛連のシステムを利用した「ストレスチェック」の要請にお応えし、メンタルヘルス対策に貢献いたします。

<ストレスチェック実績 推移表>

年度 区分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
受託事業場数	102	130	81	75	69
受検者総数	15,699人	19,806人	11,602人	10,452人	9,562人

(3) 特定保健指導

特定保健指導は、以下のとおりでありました。

＜特定保健指導実績 推移表＞

年度 区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
動機付け支援	264件	605件	618件	816件
積極的支援	392件	746件	998件	1,544件

健康保険組合と工場内診療所における「特定保健指導」が定着し、上記実績となりました。当期は動機付け支援・積極的支援ともに件数が増加いたしました。積極的支援の実績は、年間を通じて定期的に数回の指導を実践した方を対象とします。「コロナ禍」の社会情勢の中、指導を見送られる懸念もありましたが、前年度実績を上回ることができました。当協会が公益目的支出の継続事業として選択した「特定保健指導」を着実に履行することができました。

(4) 内部被ばく線量測定 (Whole body counter) 搭載車の稼働状況

環境省が取り組んでいる「福島県内における住民の個人被ばく線量把握事業」について(公財)原子力安全研究協会のご指導のもと、当協会が保有するWBC搭載車を現地に派遣し、自宅に帰還または帰還予定の皆様の不安軽減に貢献いたすべく継続して取り組みました。

稼働日数の推移は以下の通りでありました。

＜WBC搭載車 稼働日数の推移表＞

(単位：日)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
稼働日数	9	88	87	86	49

内部被ばく線量測定業務は、福島県内対象地域の皆様の「住民健診」やその他の催事と同日に実施しております。

当期は住民の皆様が一堂に会す機会を回避するために、その他の催事の大多数が中止されました。その結果、実績は半数程度まで減少いたしました。

【事務センター】

健康保険組合の健診関連事務を代行する「事務センター」の業況も巡回健診事業と同様でありました。

システム環境の整備が完了したために、設備収入は前年度比減少したものの当センター本来の事務代行業務は、上期は低調でありましたが、下期にこれを挽回し、年間を通じては前年度比96%の事業収入となりました。

＜主たる業務の業務別処理実績推移表＞

(単位：件)

業務年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
①予約管理	190,917	201,243	191,185	199,453	182,569	198,915
②請求管理	249,928	243,740	246,801	236,718	236,632	211,774
③結果処理	248,377	243,009	248,613	243,847	243,624	218,053

本年度は「健診結果標準フォーマット」の導入初年度となりました。達成状況はデータ件数では8割に達しましたが、残る2割は委託先のシステム環境が整備されていない等の事情によるものでありました。

すべての委託先医療施設が所定フォーマットによる健診結果報告を実現できるよう継続的に協力を求めるとともに、システム環境整備の助言に取り組むことといたします。

当センターが担う健保の事務代行業務は徐々に拡大しております。主たる業務以外の健診に付随する事務代行の受託状況は以下のとおり推移いたしました。

＜その他の保健事業関連事務代行業務の推移表＞

(単位：件)

業務区分	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
立替・請求処理		3,423	7,816	8,086	6,901	7,948
インフルエンザワクチン接種補助審査		—	108,719	109,563	120,690	25,931
保健指導結果・請求処理		—	2,682	7,400	14,951	15,777
歯科検診結果・請求処理		—	22,676	21,003	19,604	2,160

本年度の期首には日常定例業務のRPA(Robotic Process Automation)化を実現し、精度を維持しつつ大幅な省力化を図ることができました。期央には健保組合が開発した受診者・医療機関・健保組合の3者が、Web上で相互に健診の受診状況を共有できるシステム運用の実務を担当することとなりました。

II 技術研修会等

職員の技術力の向上を目的として、(公社)全国労働衛生団体連合会等が主催する各種講習会・研修会に参加すべく計画いたしました。が、「コロナ禍」により外部研修会の全てが中止となりました。外部研修会の参加実績は皆無となりました。「eラーニング」の受講を継続するとともに以下の社内研修会を開催いたしました。

社内研修会の開催実績

開催年月日	内 容
R2年 4月 7日	「新型コロナウイルス感染拡大防止対策について」 健診業務部・医療技術部・健診計画部
4月17日	「2020年度個人情報保護教育・(理解度テスト)」 全職員
5月 1日	「新型コロナウイルス感染拡大防止対策(改訂)と協会職員が感染源とならないための注意事項について」 全職員
7月17日	「個人情報保護教育」 メール誤送信を防ごう(日常業務で注意すべきこと) 全職員
7月31日	「新型コロナウイルス(SARS-Cov-2)検査について」 検査の種類、PCR検査・抗体検査の詳細について 各部管理職・渉外推進部・事業開発部 講師：(株)LSIメディエンス 播野 壮一 氏、相澤 直秀 氏
9月	「新人研修会」 本年度は新入職員からのレポート提出をもって開催いたしました。 テーマ：「入社配属されてからの仕事について」
12月	「第20回年末研修会」 12月12日(土)開催を目標としましたが、全役職員が一堂に会すべき状況ではないために、社内イントラで資料を配信する結果となりました。個人情報保護に関する継続セミナーと理解度テストにつきましても、講師との質疑応答ができない結果となりました。
R3年 1月	「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について」 —健診8団体が合意した対策の再確認— 健診実施機関として適切な受診環境を確保するための留意事項について 再確認 全職員

Ⅲ 講演会の開催及びその他の発表・指導、協力等

その他の発表・指導、協力等

- 7月13日～12月28日 世田谷区と同区医師会からの診療放射線技師の支援要請にお応えしました。
「コロナ対策」を目的とする施設内の「CT操作」を担当する有資格者の支援要請を受け、操作に堪能な診療放射線技師を定常的に配置しその要請にお応えしました。
施設として担当技師の確保をみたところで、支援を終了いたしました。
- 10月～12月 「産業保健フォーラム Online 2020」Web開催の実行委員として協力いたしました。
主催：東京労働局、(公社)東京労働基準協会連合会
例年健康測定コーナーにおきましてブースの運営を担当し、参加者が1,000人に達することを目標に取り組んでおりましたが、Web開催では達成感に乏しい結果となりました。
- 令和3年3月 「全衛連 東京都地区協議会」の会務を運営いたしました。
標記協議会の幹事機関として、Zoomにより「働く人の健康診断推進運動」の実践や会計報告に加え、全衛連本部からの「事業者健診データの保険者への提供について」の重要な情報を配信いたしました。

遺憾ながら、例年開催しております「定時社員総会」終了後の有識者による講演会や「福島第一原発事故に伴う緊急作業従事者に係る健康相談事業」「バングラデシュ祭の無料健診ブースの運営」「港地区健康と安全推進大会」「江戸川健康づくりセミナー」「健康医学研究会」への協力は見送りとなりました。

Ⅳ 外部精度管理への参加状況等

公益社団法人全国労働衛生団体連合会が主催する以下の精度管理調査に継続的に参加いたしました。

- ① 令和2年度 胸部エックス線検査精度管理調査
評価B (R3. 1.26)
- ② 令和2年度(第34回)労働衛生検査(鉛・有機溶剤・特定化学物質に係る代謝物等の検査)に関する精度管理調査
評価A (R3. 3.4)
- ③ 令和2年度胃X線(第3回)検査精度管理調査
評価A (R3. 3.25)
- ④ 令和2年度臨床検査精度管理調査
評価A (R3. 4.9)

当協会の精度の維持・向上を目指して「P(プライマー)マーク」の取得、全衛連の「労働衛生サービス機能評価制度」の認定機関登録をしております。当期は両者の認定更新審査の年度でありました。以下の通り審査をクリアする見込みであります。

Pマーク認定更新期間 : 令和2年9月22日～令和4年9月21日 決定
労働衛生サービス認定更新期間 : 令和3年6月1日～令和7年5月31日 内定

V 会議の開催

- (1) 定時社員総会：令和2年 6月23日
- (2) 理 事 会：令和2年 5月27日（書面理事会）
令和2年10月27日
令和3年 3月30日

(3) その他

- ・常勤理事会
 - ・各部報告会
 - ・ライン会議
 - ・品質保証委員会
 - 1) CS・ES委員会
 - 2) リスクマネジメント委員会
 - 3) 医療技術情報委員会
 - ・安全衛生委員会
 - ・機関誌編集委員会
 - ・個人情報保護委員会 適宜開催
 - ・精度管理部会 //
 - ・自主監査部会 //
- } 毎月定例開催

VI 研究資料の配布等の広報活動

(1) 事業年報の配布

令和元年度定期健康診断を実施した「職域関係」の有所見率を検査項目別に分類集計した統計結果と当協会の令和元年度のトピックス等を掲載した事業年報を作成し、会員・顧客の皆様に配布いたしました。

(2) 機関誌「あおぞら」11・12号を発行しました。

当協会の機関誌「あおぞら」を発行し、板橋本部の各部と事務センターの近況報告に加え、巡回健診における「新型コロナウイルス対策への取り組み」や血液検査の方法・基準値の変更等について掲載し皆様に提供いたしました。

VII 関係団体への協力等

東京都産業保健健康診断機関連絡協議会 理 事 理事長 白川 毅

VIII 会員の異動状況

(R 3, 3, 31現在)

会員区分	前期末	増加	減少	当期末
法人正会員	19	0	0	19
個人正会員	23	1	0	24
法人賛助会員	11	0	0	11
個人賛助会員	0	0	0	0
合計	53	1	0	54

(別表)

令和2年度健康診断区分別受診者数一覧表

1) [職域関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
雇入れ時	4,125	
定期健康診断	60,266	
特殊健康診断	29,059	詳細は別記参照
生活習慣病健康診断	95,650	
その他健康診断	10,122	二次精密検査、定期追加検査含む
歯科	373	
合計	199,595	

別記 (特殊健康診断内訳)

健診区分		受診人数(人)	備考
法定	じん肺	922	
	鉛	365	
	有機溶剤	8,461	
	特定化学物質	9,301	
	電離放射線	842	
	石綿	750	
行政指導	有害光線	661	
	騒音	4,124	
	振動工具	253	
	腰痛	444	
	V D T	2,936	
合計		29,059	

2) [地域住民関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
住民健康診断	0	行政・地区医師会よりの受託等

3) [学童・生徒・学生関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
学童健康診断	28,288	学童・高等学校・専門学校・専修学校・大学等

1) ~ 3) 合計 227,883人

事業報告書の附属明細書

一般社団法人 労働保健協会

該当事項が無いため、記載を省略いたします。